

なぜいま学校統廃合か 新常識で見直すべきだ

教育こども委で長岡議員



長岡ゆりこ議員

統合して北区に桜和高校を設置するものです。

長岡氏は、新型コロナウイルス危機の中で「3密」を避けるなど「新しい生活様式」が求められ、学校のあり方も議論になる中で、「なぜいま統廃合化なのか」と指摘。新型コロナで学校現場が混乱し、子どもたちが不安を抱え、心が傷付いている中、小学校で来年度に統廃合を行うなら、教職員や子どもたち、保護者にさらに負担にかけられることになる」と述べました。

20日開かれた教育こども委員会では長岡ゆりこ議員は、小学校と高校の統廃合条例案などについて質問しました。条例案は2021年4月に生野区の御幸森、中川西小学校を統合して大池小学校を、西成区の梅南津守小学校と松之宮小学校を統合してまつば小学校を設置。22年4月に中央区の南高校と西区の西高校を

統合して北区に桜和高校を設置するものです。長岡氏は、新型コロナウイルス危機の中で「3密」を避けるなど「新しい生活様式」が求められ、学校のあり方も議論になる中で、「なぜいま統廃合化なのか」と指摘。新型コロナで学校現場が混乱し、子どもたちが不安を抱え、心が傷付いている中、小学校で来年度に統廃合を行うなら、教職員や子どもたち、保護者にさらに負担にかけられることになる」と述べました。

市教委は、統合後に一校に学ぶことになる両小学校の児童の交流事業などで不安を解消するなどと答弁しました。長岡氏は、「いま目の前にいる子どもたちへのケアが最優先。学校同士の交流事業などは、今年度は控えないければならない」と反論。「コロナ禍の下で学校再編を進めるのではなく、アフターコロナの新常識で再検討することが必要だ」と力説しました。

赤ちゃんを育てている母親や、高校生がいるシングルマザーらから、切実な相談をたくさん受けていることを紹介。1千億円以上残っている財政調整基金を使い、市独自に困っている市民にすぐ役立つ助成を行う必要があるとし、「市民の税金で積み立ててきた基金を今こそ還元すべき。政令市の強みを生かし、スピーディーな施策の実行を」と強く求めました。